



主体的に問題を解決できる児童の育成

～2年生 数学的な見方・考え方を育てる授業づくりを通して～

12月22日（木）、今日は冬至。生憎の雨模様でしたが、昨日までの厳しい寒さは和らいだ1日となりました。写真は5年生の皆さんが育てたお米で炊き上げてくれたご飯。校長室にもお裾分けに届けてくれました。ふっくら炊き上がってとてもおいしくいただきました。5年生の皆さんご馳走様でした。

さて、寒くなって、道路の凍結が心配なので早めに家を出発するようになりました。するとこの時期ならではの光景を目にすることができます。それは朝日に輝く泉ヶ岳の美しい風景です。ちょうど泉ヶ岳の雪化粧が始まり、朝日が昇った瞬間だけ写真のように朱色に染まった姿を見せてくれます。しばしその美しさに心が奪われてしまいます。

昨日は2時間目に今年最後の全校授業が行われました。

授業学級は2年3組岩手先生の学級です。子どもたちは聞く構えがとてもよくできていて、岩手先生の言葉がとてもよく伝わっていると感じました。また、先生の指示がとても行き届き、自己解決ではしんとした空気の中で、子どもたちが集中して問題の解決に取り組むことができました。岩手先生は座席表を使いながら一人一人の解決の状況を丁寧に見守り、また支援を行っていました。

集団解決では、自分の考えの紹介と友だちの考えの説明を分けて進め、学級で1つの問題を解決しようとする雰囲気がとてもよかったです。

また、最後に1組さんでは出ませんでした。あるものと仮定してそこから欠けている部分を引く、という考え方も紹介され、この考え方は複合図形の求積への発展にもつながるように思いました。とにかく子どもたちを本気にさせた岩手先生の見事な指導でした。

先日、悉皆の校長研修で、文科省の笠井調査官の講話を拝聴する機会がありましたが、やはりここでも感じたことは「学級づくり」の大切さです。岩手先生には急遽研究授業の授業者を引き受けていただきましたが、普段の学級づくりの素晴らしさが伝わってくる全校授業でした。岩手先生、お疲れ様でした。

（文責：手代木）

